

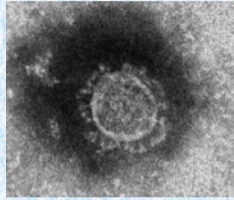
新型コロナウイルス感染症に 注意しましょう

新型コロナウイルス感染症は、国内の複数地域で発生しています。感染の拡大を防ぎ、流行を早期に終息させるためには、一人ひとりの取り組みがとても大切です。手洗いやせきエチケットなど、皆様のご協力をお願いします。

新型コロナウイルス感染症について

●新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、ウイルス性の風邪の一種です。発熱やのどの痛み、長引くせき(1週間前後)、強いだるさ(倦怠感)を訴える方が多いことが特徴です。



新型コロナウイルス(国立感染症研究所提供)

また、ウイルス感染から発症までの期間(潜伏期間)は1日から12.5日(多くは5日~6日)といわれています。

●新型コロナウイルスの感染経路

新型コロナウイルスは、飛沫感染と接触感染によりうつるといわれています。なお、空気感染は起きていないと考えられています。

飛沫感染

感染者の飛沫(くしゃみやせきなどで飛び散るしぶき、つば)と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込むことで感染します。

接触感染

感染者がくしゃみやせきを押さえた手で触れたもの(ドアノブ、蛇口など)に、他の方が触るとウイルスが手に付きます。その手で口や鼻を触ることで粘膜から感染します。

●重症化しやすい方

新型コロナウイルス感染症は、重症化すると肺炎となり、死亡例も確認されています。特に、右のような方は重症化しやすいと考えられていますので、人混みの多いところは避けるなど、感染予防を心掛けてください。

特に注意が必要な方

- ・高齢者
- ・糖尿病や心不全、呼吸器疾患(COPD等)の基礎疾患がある方や透析を受けている方
- ・免疫抑制剤や抗がん剤などを用いている方 など

感染が疑われる方は、まずご相談ください

県では、新型コロナウイルス感染症が疑われる方の電話相談窓口(帰国者・接触者相談センター)を設けています。次の症状などがある方は、医療機関受診前に、お住まいの市町を管轄する広域健康福祉センターまたは宇都宮市保健所にご相談ください。なお、通常の受診を妨げるものではありません。

- ①風邪の症状や37.5℃以上の発熱が4日以上続いている(解熱剤を飲み続けなければならない時を含む)
※高齢者や基礎疾患のある方、妊娠中の方は、上の状態が2日程度続く場合
- ②強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある

県内の電話相談窓口(帰国者・接触者相談センター)

施設名(下段は管轄地域)	電話番号(24時間対応)
県西健康福祉センター 鹿沼市、日光市	☎0289-62-6225
県東健康福祉センター 真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町	☎0285-82-6997
県南健康福祉センター 小山市、栃木市、下野市、上三川町、野木町、壬生町	☎0285-22-0302
県北健康福祉センター 大田原市、那須塩原市、矢板市、さくら市、那須烏山市、那須町、塩谷町、高根沢町、那珂川町	☎0287-22-2679
安定健康福祉センター 足利市、佐野市	☎0284-41-5900
宇都宮市保健所 宇都宮市	平日(午前8時30分~午後5時15分): ☎028-626-1114 夜間・休日: ☎028-626-1135

※外国人の方など、日本語以外での相談をご希望の方は「とちぎ外国人相談サポートセンター(☎028-627-3399)」へ(火~土曜午前9時~午後4時)
※聴覚等に障害があるなど、電話での相談が難しい方はファクシミリでご相談を平日(午前8時30分~午後8時): FAX028-623-3052、夜間・休日: FAX028-623-2527

●治療薬など

インフルエンザのように有効性が確認された抗ウイルス薬がなく、症状に応じた治療(対症療法)が中心です。現在、ワクチンや迅速診断用の簡易検査キットの開発が進められています。

●集団感染を防ぐために

感染拡大を最小限に抑えるためには、小規模な患者の集団(クラスター)が次の集団を生み出すことの防止が重要です。

集団感染の共通点は、特に「換気が悪く」、「人が密に集まって過ごすような空間」、「不特定多数の人が接触するおそれが高い場所」です。こうした場所は避けるようにしましょう。

県主催等イベントの中止・延期や、県有施設の休止等の情報は、県ホームページでご確認ください。

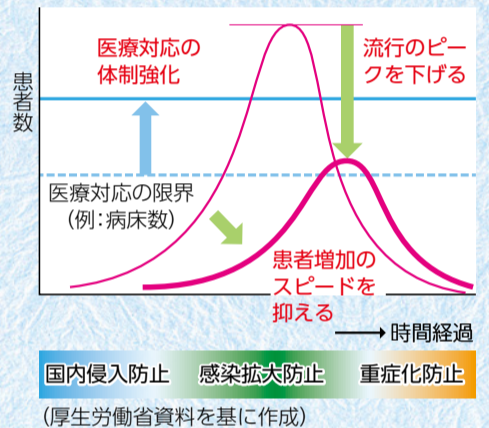


新型コロナウイルス感染症対策について

国の新型コロナウイルス感染症対策本部では、現時点での対策の目的を次のとおり示しています。

◆対策の目的

- ・流行の早期終息を目指しつつ、患者増加のスピードを可能な限り抑え、流行規模を抑える
- ・重症者の発生を最小限に食い止めるべく万全を尽くす
- ・社会や経済へのインパクトを最小限にとどめる



特に、医療対応の体制強化や流行のピークを下げることにつながる患者増加スピードを抑える取り組みには、一人ひとりの協力が必要です。

一人ひとりの対策で感染を予防しよう!

●こまめに手を洗いましょう

手洗いは、手指からウイルスを洗い流す効果があります。外出先からの帰宅時や調理の前後、食事前などこまめに行いましょう。アルコール消毒でなくても、石けんを使った手洗いで十分な効果があります。



※洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルなどで水気を拭き取る

●せきエチケットを心掛けましょう

くしゃみやせきが出る時は、飛沫にウイルスを含んでいるかもしれません。他の人にうつさないために、次のことに心掛けましょう。症状のない人がマスクを着用することによる予防効果は、あまり認められていません。



●症状があるときは、外出を控えましょう!